椀久
松山
特別
へ13
4466

文化壬申新鐫

山東京山 慎詞

歳男金豆蒔

歌川國貞画図

永壽堂 繍梓

欲拗枯禪
談恰学先
雅晋書演
風流 文化辛未之
秋題南無堪忍舍
三羽凉仙東四

著者東京山人ハ近年男の稗史ハ彼桜久太山が
歌川作多くの讀てぬつ鳴呼妙る哉くと
三盃のんで杯乃舌ろうまくぬ筆とりて
こんな文章でもよろこんでもらいたいと
書なら千歳を結永寿堂あらる
夏さくらの唯さ夢くまで待評判と願の
堀へを遠のうちぬ泉橋のかさりと
文化むつじ の秋

賣油郎山月
古柳

作者京山挑久の種と脱乃内へやとせる

京山桃久乃巻

正旦

艶生

桃久

京山つえにひらいやうくまを久のまるやうとうみ出若要とまけくなをすそのの人わ乃ほとし

○ちんハ乃町人

桃久ハ久ちら一ま久へいまして桃久とい

京山ろく
ぜんこう
ぜんこう
ぜんこう
ぜんこう
○ぜんこう
ぜんこう
ぜんこう
ぜんこう

京山

國貞像
豐國画

是ゝ作のんのはじまり文章

此書 文化八年
辛未孟夏脱稿
仝秋八月梓成
發販

二之巻

あの屋
あるじや
まえのつづき

六
船

そうだんあいとだんとうろあり六ろんくがそうろうんだろのうさまが
さのつりひろやうそのひとくなるーうてうろうろうとそをかろ
○てはスのまろもろろ五の助いまんくはるひやーーぞ
よいまをぶつのそういきーーろの西そ中ーつ五のうーーそーろの
やーーひだーのひまの公すぐにわだーくうーーーーーーーーーーの
まざこのちやのてまんいぎーてあいにりーひあのりさ
どうぐとあーくて金をみうーあうのきりのきりのにやそもが
ぶけでろくすーろーついでかる西ーまんくが母のお六あいの助松
ぐんとうろあり六ろくーーれまきうろれたよのみーろーろう
これりくーあるーしいまあーーこうーくへ悪六きゆきーの
もーーーきりでござりまもと 助松にむりのモシわゆきの
おーろーふそこぞーちをあーがでんまをぬこれいとーーーぞ
ようわーりーーーーーーーーーー

○ゆくてとなりのもうれたぜのこゑ
さうかきをおさるあるまの助をひざりく人をて
おかをとこ小ごゑにあり「ゑ六をつれて
ゆふきつかいちとをりのかてよのこゝい
とろあるかりでもあいまんくが
あのでにゑひやりが
あのあへけるかあいの
こゑれなるぐこきさかの
ゑゝこきだちとをまにでも
あどむやうにまのむトまんくを
やうこゑりのにして
肉ゑおひざーゑ松に
あとゑくこするくゑん
それこのつぎにこのこゑれべ
どうこゑ松りまゑの助ゑかこの
いこんもあれでまくを
まんくをやうこゑりのに
してまつーやをあざけり
店さてーこるいこんを
ゑくくゑんとおりひのゑも
ぜちひこーまくが
あのやうかぢよこのあの
うこいおくこいわれくが
こゑにもゆゑがくー
こうあがー
ーが

ともぐちに
こる井
ちゑんと
ひのねーや
ひまゑこい
くをゆくこう
にもる
ゆくかわり
そのこをこうを
少月ひわて
そのこうべでえ
ゑくこくが
おまをこじを
いくーまをあと
いくべこえくこゑにまをびすぐに
するこいまゑんをよびよををこうんすれを
こをこうがこゑがこうよをこれるまでちやうが
ゑーゑくをこうにゆくくこくこうのひきちゑ
いこりのこゑゆゑをまをこのゑをるこゑへひ
いくべ金ゑにゆくくこをこゑくこのこくのこ
こくこうけあひゆくこをこゑくこのこくのこ
こちこれだこえをわどやへこうここいこひ
ゆ社がくーひこくこうひ
ひきちゑ助松にこをこ
こうゆーゆんどうの
ひきちゑどうゑ
月ひこるこを
○ゑん
きこくが
いりくあ
ゆ社
ゑ六人
きあへを
こをこ
こえ
ゆ
ゆ

三之巻

宗甫さん
三馬さんの
えんじゃ丹を
あげる

六

松
枕
袖

梳久
國貞画
山東京山作

小泉九十郎

其二

三丁まへのつゞき

ねひ[illegible]のかどで松山松のうへべ[illegible]これがいろみじやーこのいりれで
まつ[illegible]ぐ[illegible]とまつ[illegible]ぐ[illegible]ちこれがいろみ[illegible]
大じんもろ[illegible]ひちろ[illegible]

○かてをのこ[illegible]

村松
西むら屋
富川

小泉
山東

柚
松
梅

まえのつゞき

けあがふすうせをおまやトふうと
つゞやゆつれくりひとあの内ふちのゞせもきしま
久ぎもゞこのく立ゝりうれがもをいの久ぎまもとひ
なのまゝなもんゞまそれけのせのひとりやふうり
とゝハうけゞこうれゞとていくのいさとこうする
ゞどのことものつまじおひいろゞたまと
祝びきしそゞへきへおくゞこるゝもゞのゞ
ゝゝゞゝゝもあびきまのゝものまゝてのゞう
ゝあまゝといゝハなけるゝあまんかきとへぬ
ゆうふおりひまゝとまゞにうゞこひのそゝれい
久ゝあゝとゝ打ゝふひさゞあてゝういやらゝこ
ゝあてなゝうん久ゝかんゞゝしてあの内ゝおゝね
ゝけ山みゞいゝるゝとゝゝゝるのゝちゝうゝ一つゝゝと
とゝいゞじゝてもをいゝゝるゝとゝれゞふゝんゞゞら
ゝうあゞゝゝゝゝ松山ゞのゝゝん久ゞゞゝうゝいゝく
ゞをゝんゞあゝゞゞゝゞゝゝゝゝゝゝゝ一ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝしくゝんゞゝゝれゞゞゝゝゝゝ松ゞゝゝゞびきゝ
さゝをゝゝゝゝゝゝものきけゝゝゝゝかけゝゝきゝゝゝゞ
さゝゝれゞゞゝゝのゝゝゝゝしゝゝゝゝれゝりゝなきゝ
ゝをゝゝけゝゝゝゝゝゝゝ

○まんぞくふろき
人形とつかり
ふくしき
まんぞく
とりかせのでへ
おちどのかんどうも
ゆりうぐめろ
ちろとのゆーや
ちんぢうーや
松山
ちんぞくも
おぢろくの
すげ
おざよ
おもかーちんを
ちんぢうーや
松山
ちんぞくも
おぢろくの
ちんぢうーや

六
「おれがふて
せんきけば
めいわち
ちぢめ
つれてゆ
ゆるゆど
ゆるゆど
ゆるゆど
「ちんぞ
ちんぞ
ちんぞ
ちんぞ

二十八
二十九

七之巻

さるぢぶつてんくがいのこの
お神い仁女のおすべどうぶ
紙やゆ入おきておくれ
づとひちゆるところハ天狗
でーとかくどもきらめ日ごろハ
こゝひとおりふさあこの物も
ひちうのようゆうちちビ
天ーんたにのらんんゆかけ
のぶりあむあこぶぶと
りろともゆひくりと川へ
ぶびこみーきちうふこぎ
くるまるぶゆのさあの中へ
まりさうきゆせんどうハ
ひつくりしやーありゆ
さりしこれバさあの
ありようりあるきゆー
さてのゆるべがこの
こゝろくんどこんどゆちがひ
ない今ごろひ女中ゑと
ひきあにてんれが西きつぐど
ふをきーくつけこゝろのくゆあるぐの
ようをかくりてお神とうにしゆのうと
ようこゝれがこゝろのくぐーちよりて
さまぐゆいこりけりかるゑへ つぎづく

ちゆうこをうけてひきのびこゝれうがやひこゝる
せんへあるまいそてゐんとせうぐうせうとまゆん
ゐうぐんへかのゐうべ「モシお神さぬさうきゆうとと
きゝはこゝろひいゆあでーゐうとぎうまもとうこさ
ゐうこゆあかもてかはさゐのこゝうひくゆゐうゝ
ゆうのゐーこゆ今でゆゆぐりゆうとぎうまもー
いゆうお神ゐこゝうぐきゆうぐかはゐこゝ
めうこゐさゆうゐこゝれどこゐのゐうぐりゆ
ぶぐ紙やゆへゆきこゐのゆうひ「ゐこゐこゐ
らぐんとゐうぐひうひ「ゐこゐこゐ
ひうゆせねとゐいにぐゐ
ぶのゐゆうこをみて紙ねゆと
ロときのゐゆゐゐ百のロ
ゆんぐんたゐうねゐぐせゐの
ゐこゐくとして
ゐうこびぐう

松
油
つぜん
とのこと
それでは
まふさえへ
もたらぞ
つぜん
ちうじいと
とりつぐを
ふてゝ所の
くぐさえ
ひろく
おいを
のあゆきま
ちぐひへ
きのこ
おそそぎこと
それはさん久
よろこび

松
油
牛之のつぎ
さん久八扶ごう〜あくさきふ
おきくるかりがけとゝろをとゝりかゝて
ろ山ごろやとこちようこれがどうから
いとこのお油がかゝつきまがひめがどうきのて
人とおーゝみよくゝこれはいもとのお油ふ
ちぐひまーさん久まゝ〜おどろきふやけて
ある所の人ふ
これはこれくぶ
ひのとぐ
ごきるとひべ
くぐ大きふ
よろこび
りのつぶ
あつそへ
所のあゝと
おりひーふ
分ようの人ふ
きのこいのこと
あくくばこの
芋中とうとりそ
ひろれよとゝみ
あいのうちふ
お油もあゝ〜
しきふきうへ
ヤアあふさんゝ

[illegible] お松もいやなりもおりひ[illegible]てもねるかぐど
たとへのちいたもうるとも内へかくるとうハなの
ともかくもものようふーてざるんせとうん久が
ひざくずれてもうりあき松山そばうら口をそへ
あのようふいうそどやりのまぐとうぶんこちの内ふ
かくまひやしくわうじ町のおぢさゑともさぐんして
あの子のこうのさもむまうふとうん久ぞさくひれば
いるきゑそうじやと本ゑへもさうもしふ
うん久ぐさえかくまひおきね
○かくてつぎの秋うん久、
どのいやどふりと入きる
いきこの小二戈うん久
つのようあうさうもあき
男ゑれば山うん久よ
うんの月でどうら
ぐざうさとうふ内
松山いあ中く
ありひうそぐき
めんどうちきのひま
あそぐを
戸ぐるく
おーかくし
さめくぬ
ていもてるう
ければかの二戈

▲さきうくさきを
きくあるき
ひおるかして
あるくを
たくふきいそ
きくお松いや
おうるしあつせば
よーいぐと
いくくたあふるるく▼

▼けアつせ
うん久どうだと
いろうとうつの
かもそお神ゲ
うるさまてくれく
きくうるお松が
ぐうぞあくぐん
あくさもあしと
今ますでのあくじの
ぐんくるくたくく
たちもむれば

松山よむろひ
「ひるさゑうん久
さんあやまぐうくま
あちぐきでもどうりやせんが
松山さんあめくんうそれやアちみきるめく
トいうまよくくかんぐて「ちんふあるすん
ゑ松さんうちたづをてぐきんーたとうふうん久
「そんちふとあるうん「めいあめくとんまアいとと本うう
とんやきさうろうでも泊くも紬と丈へそもうんるせく▲

「ちぐきゑ松が
いろのまうふ
どぐくーたるゑどや

エうあうまーのと
うん久がむうぐぐ
とうてたどとぐん
おりひがけかき
うーろうより
「ゑれまて松
アあうじちうと
いうれてらしう
うりめくり「ヤア
ちまうんくゑもじ
まちのおぐどやく
「ゑことのちど
本ゑゑゆてお六が
ひきあうせで
ちぐきまうくさ
ゑ松けまうゆ
うんくもじも
とうさね
ちうていりの
つきくぐく

年人のつぎ

つぎ
きろとまんやうをお目ゆ
かけまして今のおぢどのまんぜろく
たくびもいとそれいとまをぬまア
もちやあどおろくてゆろくとどぞれ
それ松山おふぢおいどりじやだい
あのとこてくんでごとあろく
今もどこあくふまさまのこてと
ちくれろうやどもくおどもかろ
くればこまらちりくてもぢおぢの
ちんせろとりぐあうろさしてくるとびけるぐ
松山ろん久まひろひ日どろくふせのきあろる
久ゝさあいろん付さかまつくんぐれと
あつあるまのりのでもそーかあぐくとぐ
松ぐひの思めんどろるぐらくのこ
まくとしいべるあぐさて行とそく
あくろくいるのが
ゆとらふのも今
ふぎあいろきあ
あぢどへ
せのきあう
人この用
だろりいあの
ちやりふも
きろまれぬいろそ
とろりふそろくと
「あのくん
どうちろん
しくエ
「あやく
あぢど
しの後
「とろろふ
お目ゆ
かくと
くて
ありばさ
ちやが
くんと
まろて
ちろん
ちよ
松

くやろくへれそ
ゆきらち
めけてあるつろやどふ
ちくくまれとりくぐ松山ちぢび
つぐつとあさくくくくゆくろれば
ぢあどろろくくく久がどまのんん
かろくくひしかみをあろせくく女
今ろまんやよあそ松山くくろう
そればまづあびとかりあふくんと
一ふどろのそくちろの娘どくのく
つろひよれがかの女房ふろきく
けくくとくとふかくてつろひと
とりふきくろちのをちつて
ちくぎまぢかくてこれかくも
それどくやろれまのとついちくと
ちきくて丸てびふお袖ぐさとと
くーかろびのさしかぎろどくくふの
むしの松山ろくのひくきくんきど
袖もちくどくさまぐどくんのくそ
とくてくん久ろ今ろのくくとろふ
きくんかの女房とろくくふ
くのとくお袖どのしてくくくど
ひをぎくる。かくてくん久松ぢろ
ろくくんくろむしいつもあきくくを
今ろくくろもせまくくのくれんどくくそさ
くくろひて「あんくくこれいおどどしい今もいまくくあ
ふろふへ目どく
そあるくどくの「つぎつづく
ちくよ
りろつ
きるよ

「あくのうち
「こりゃこりゃ
「みのき
松山さんざの
「みどりぐん
松山さんざ

松
梅

池脇蓮芳謝囲
秋作 高深
石秀山タ徳雅

袖
久

巻之九

まんのつぎ
ゆくさもてーぐん
ちゃーくゆくとそれてもひとりがみーあと
しーくえんどうこれてもひとりくもとりへ
つまろてーんさーしろくーもとりへ
あれひとりとかりはとる
おとそとろのれ松山
人ばかりがあるこれまの
ひとまろくるくるくいろて
松山にゆひるにもろも
わわひてとりーぐんしと
見ながーひとりきとりとう
なかーしてゆーぐとあるひ
とーひとりさしさと
ひまるりろくく
いそぐーこまもと
らーぬーりに
見おろりて
おまりの口へを
へにる
○ろくにえの
梅ばへいろくと
おろろとろりくの
ろんくるきーしの
見ておりくと
ひくきとろ
ろりやれ山えんと
ゆきけのらちも
ゆぬやムもと
ひにろーるさ
ゆくいりえへりく
れ松にれゆるて
ろれろと
ものと
高くまち入口
古づ図

ゆくれば
▲梅ばへころ
ものびはてえんや
ニろひへーれ
へくれーばるんきくへ
ネーばるてえんやの
ニろいめーしれれも
めらくとれ山へ
ここえあるもとと
ひふくーとるんく
梅ばえへろくとるんく
ゆえんあーおまへ
ろくーとにろれ山えんい
いくーやなくくろくく
ろの木ーんのさーいく
でくんしさ
次へつぐく
全部
山東京山
合巻
柳亭
柳多留
柳影
丹

騒情史葦禮
曲新翻
付妙堰
一夫
紅
逾多少恨美人
墨土袁分頭
京
即興
書肆
永壽堂の
京山
作ヤ
桜久

ニセの
堅
地の
作ハ
評判も
あとゝ
さげ
ぬ
ようせ
桜久
東西庵
南北

重
松

志

千祥萬禎

進寶日慶

○永壽堂藏書目録　江戸馬喰町二丁目角　西村屋與八

新改御江戸繪圖一面 彩色摺 大形 毎月改
無彩色 中形 小形
諸御大名御紋上中下屋敷 御蔵米出張 米穀市場
智地廣小路 諸町名 所々上ゲ地 空地 改正再板仕ル

東ハ 中川 葛西筋
西ハ 板橋 代々木邊
南ハ 目黒 品川迄
北ハ 王子 千住限

従日本橋 諸方道程入

式子内親王家集 全三冊

篆隷千字文 八體 再版 傍訓

郡花百人首和歌集 頭書三階板 北尾紅翠齋筆

近道子寶 手本向太字 寺澤流

観音和談抄 普門品 訓讀入 恵入

挑灯 傘 かんぢんのうれんちんぴの類ハ角字てんぢく紙書ちらしを重寶する本なり印刻ハ要用の文字あり

百性往来豊年藏 中本大本

續百性往來太平樂 中本

両かる附庭訓往来 大本

同 御成敗式目 大本

中本小冊寺子重寶類目録

江戸名所方角書　江戸方角獨案内　太平江戸往来
世話字往來教車　道中往来得心種　手習今川准状
諸職往來　商民職人往来　和漢名數往来
隅田川往来　下掛り小うたい本　大和こゝろばせ
ぢんてん問答　福ざうり書　浄家流 四季用文章
分類万用字畫　古状揃九札入 付有　伊勢物かたり
女今川梅花文庫　童子節用集　小笠原ちつけ方
本朝重家系図印譜 両面一枚摺　新刀古刀刀劍銘盡 両面摺 價附入　元三大師御圖抄 中本小本
浄家流 法民 通用 手紙之文言　文通返事百十四ヶ条入　十返舍一九 案文　鈴木松羅堂 書
両面一枚摺　懐中案帋 手形 折紙 法度文 案文 ちきりたんさく ちつめ方 とちつき

繪入讀本

霧籬物語 全六冊 一名本朝賣油郎　山東京傳作　歌川豊國画

梅川忠兵衛 二人 全九冊　山東京傳作　歌川豊國画

八水 八龍 黄金花男道成寺 全十冊　山東京傳作　歌川豊國画

こいる咲 曙梅武士 全八冊　山東京山作　歌川豊國画

うん久松 歲男金豆蒔 全九冊　山東京山作　歌川國貞画

みのや三勝 近江屋おさん 隣同士轉寢物語 全八冊　山東京山作　鳥居清峯画

女合法 辻談儀 鸚鵡反辭歌取 全六冊　柳亭種彦作　鳥居清峯画

繪入讀本

近世實記 北越奇談 全六冊　北越 崑崙橘茂世著述　東都 柳亭 種彦校合　同 葛飾 北齋補画

繪草紙目録

二日酔浮世偶中の記 二篇 柳亭種彦作 全六冊 歌川國貞画

十返舍一九戯著 本二冊

かるたざを美獅子とび早之助 孝志ぞ[illegible]の
[illegible]向ぐ[illegible]の[illegible]五ぞ[illegible]
せるが[illegible]のおひ三庄[illegible]のあん福[illegible]
[illegible]の[illegible]ぞ[illegible]
[illegible]ぞ[illegible]る新作[illegible]

道具屋亀京一番娘羽子板 柳亭種彦作 全六冊 柳川重信画

孝子善之丞傳 十返舍一九作 全六冊 歌川國貞画

清川文七梅櫻振袖日記 柳亭種彦作 全三冊 歌川國丸画

忠臣蔵滑稽譚豊のいろは 竹塚東子作 全五冊 歌川國安画

人孝奇談讃實録 竹塚東子作 全六冊 菓川英山画

定紋花輪誓 櫻川慈悲成作 全三冊 歌川國直画

鎌倉五郎八郎伝 橋本德蘆作 全五冊 菊川英山画

近江屋お蔦 黒船深姉川頭巾

二人比丘尼 東西南北作 二人島巡 壽学染小万紅筆 全六冊 勝川春扇画

浮樂鏡虫義見通 感和亭鬼武作 全三冊 菓川英山画

右のとく[illegible]生[illegible]
[illegible]江戸馬喰町二丁目角

永壽堂 西村屋與八板

富渡吉三 狂花於香 昔木偶綻てとり

ふどの吉三ぞ[illegible]
[illegible]
[illegible]

花井筒の花 小千代紀半七 譬喩三車傳

二品共おくり大本近刻

へびのかりだ。[illegible]の[illegible]
ひつぢん羊車鹿車牛車の三ノ車[illegible]
わるいことをしたる因果ねがうなり

浪花書肆 心齋橋筋唐物町 河内屋太助

東都書肆 馬喰町二丁目 西村與八

開板